

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
伊藤英之		h-itoh@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域調査実習III	IWKa-151001-0	12人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生はアンケート調査票の作成、対面式ヒアリング、データ整理解析を行った。学生同士のコミュニケーションが少なく、それぞれ独自に作業を進めることが散見され、今後の課題である。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

宮古市の津波常襲地における津波記念碑の有効性と今後の提案

2. 調査の内容／概要：

明治三陸、昭和三陸、チリ地震津波と3度にわたる大津波を経験した地域において、過去に建立された津波記念碑が地域住民の心理にどのような影響を与え、今回の東日本大震災津波被害に生かされたかを対面式ヒアリングによって明らかにした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

【調査範囲】岩手県宮古市女遊戸地区、大沢地区、姉吉地区、千鶏地区【調査対象】地域住民36名

4. 主な調査項目：

1.石碑の認知度 2.石碑に対する意識 3.東日本大震災津波で避難するとき、石碑を意識したか？ 4.石碑の必要性
5.石碑の今後の活用方法について

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

事前に地区防災無線で協力を呼びかけ、その後対面式ヒアリングを実施

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2015年1月14日（女遊戸・大沢地区）、学生12名4グループに分かれ自宅訪問

2015年2月12日（姉吉・千鶏地区）、学生12名6グループに分かれ自宅訪問

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

地区全体で36名/86名にヒアリングした。防災無線により、事前呼びかけをしていたが平日の日中ということもあり、回収数は半分に至っていない。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

単純集計、クロス集計後、音声データよりテキストを起こした後、テキストマイニングを行い、クラスター分析と共起ネットワーク解析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

・東日本大震災における避難の際には、石碑建立場所を避難目標としていた人の割合が高い。
・石碑を中心とした地域文化の構築が求められている。

10. 報告書刊行の予定と概要：

なし